

令和３年度　各課プログラム								
プログラムNo.	目的	目標	実施事項	管理項目	本プログラムを選択した理由	継続・改定等の理由	継続・改定・新規	主管課
1	プラスチックごみの分別やりサイクルを推進し、廃棄物の量を削減する	リサイクル率を本庁舎は95%以上、その他は90%以上とする	・分別と資源化の徹底 ・廃棄物分別ガイドや紙のリサイクルの表を、ゴミ箱やりサイクル　ボックスの周辺に貼り、周知する ・個人ごみの持帰りの徹底	廃棄物の計測によるリサイクル率の測定	環境負荷低減への取り組み成果の指針として採用。	長年続けて測定し、経年変化を確認するため継続。	継続	全課
2	電気の使用削減	全体で過去５年の平均値以下にする	【使用量の管理、公表及び周知について】 ・毎月の使用量を本庁舎及び施設担当課より報告を受け る。 ・報告内容は庁内掲示板で公表し、結果に沿った呼びかけを行う。 【使用削減について】 ※使用削減の実施を徹底させるため、その設備、給湯器などの管理者が使用削減に関する貼紙などをして行うよう依頼する。 ・昼休み、残業時の不要な照明・電気機器類の電源OFF ・パソコン未使用時の電源OFF、パソコンのディスプレイの明るさ（輝度）の調節等 ・コピー機の使用後のパワーセーブボタン押下 ・冷暖房設備の使用は、建物内の気温の確認を徹底し設定温度を守る。 【設備の更新について】 ・設備更新などの情報を施設管理担当課より収集するとともに、省エネタイプの機器導入を呼びかける。	各施設ごとの電力使用量	環境負荷低減への取り組み成果の指針として採用。	長年続けて測定し、経年変化を確認するため継続。	継続	全課
3	ガスの使用削減	全体で過去５年の平均値以下にする	【使用量の管理について】 ・毎月の使用量を本庁舎及び施設担当課より報告を受け る。 ・報告内容は庁内掲示板で公表し、結果に沿った呼びかけを行う。 【使用削減について】 ※使用削減の実施を徹底させるため、その設備、給湯器などの管理者が使用削減に関する貼紙などをして行うよう依頼する。 ・冷暖房設備の使用は、建物内の気温の確認を徹底し設定温度を守る。 ・給湯室の使用は最低限とし、使用後は給湯器を消す。 【設備の更新について】 ・設備更新などの情報を施設管理担当課より収集するとともに、省エネタイプの機器導入を呼びかける。	ガスの使用量	環境負荷低減への取り組み成果の指針として採用。	長年続けて測定し、経年変化を確認するため継続。	継続	全課
4	水道の使用削減	全体で過去５年の平均値以下にする	【使用量の管理について】 ・毎月の使用量を本庁舎及び施設担当課より報告を受ける。 ・報告内容は庁内掲示板で公表し、結果に沿った呼びかけを行う。 【使用削減について】 ・使用量の増加（前月及び前年度との比較において）が見られた場合は、施設管理担当課の協力を得て増加の原因を明らかにし、公表、呼びかけを行う。	水道の使用量	環境負荷低減への取り組み成果の指針として採用。	長年続けて測定し、経年変化を確認するため継続。	継続	全課
5	CO2排出量の削減	エコドライブを推進し、庁用車の燃費向上を図る	【使用量の管理について】 ・毎月の使用量を本庁舎及び施設担当課より報告を受け る。 ・報告内容は庁内掲示板で公表し、結果に沿った呼びかけを行う。	庁用車の燃費	環境負荷低減への取り組み成果の指針として採用。	長年続けて測定し、経年変化を確認するため継続。	継続	全課
6	市民への啓発	議会報等で環境負荷・低減を呼びかけ、周知・啓発を図る。	議会報や定例会傍聴者資料に環境負荷・低減に関する呼びかけを印刷したり、議会事務局のカウンターを利用し、周知・啓発を促す。	配布物に環境負荷・低減を呼びかける文言を印刷	配布物やカウンターを利用し、環境負荷・低減を呼びかけることで環境への周知・啓発ができるため。	昨年設定した目標については、おおむね安定して達成できた。今後はこの状態を、維持継続していきたい。	継続	議会事務局
7	省エネ	内部での打ち合わせを全てペーパーレスで実施	資料のデータ化、PCを用いた会議の実施	資料等を紙で印刷した打合せの回数を管理	脱炭素社会へ向けた取り組み	打合せの回数が多く、すべての資料を印刷していると莫大な量の紙資源を消費することになるため	新規	企画経営課
8	省資源	印刷部数の適正化	各種説明資料、公表資料などの印刷部数の適正化を図り紙の使用量を削減する。	毎月、総務課より紙の使用量の実績が示される。その数値を確認し、新しく持ち出した紙の量をチェックする。	昨年度からの継続プログラムであり、令和元年度後半からはペーパーレス推進モデル課としても活動を行っていたため、引き続き紙使用量の動向をチェックする。	令和元年度は裏紙については、おおむね安定していたが、元年度後半では印刷部数の削減がある程度できたことにより、裏紙自体が減ってきているため。	継続	財政課
9	市民への啓発	日野市の環境キャラクターやごみ減量啓発キャラクター、「ひのエコ」の知名度を上げ、市民・事業者らの環境配慮への関心を高める。	広報・ホームページ、記者会見会場等にエコクマ・エコアラ・ごみゼロマン、「ひのエコ」ロゴマークを積極的に登場させ、PRする。	広報・ホームページ、記者会見会場等への環境キャラクターやごみ減量啓発キャラクター、「ひのエコ」ロゴマークの登場回数。	市民・事業者らの環境配慮への関心を高めることで、自ら進んで環境に配慮した行動を実践してもらうため。	環境配慮、ごみゼロの取り組みを啓発するためには、継続して広報に掲載し、市民に発信していく必要があるため。	継続	市長公室
10	省エネ	多摩平の森ふれあい館全体のエネルギー使用量及びごみの排出量を抑える。	来館者へごみの持ち帰り及び省エネルギーへの協力を引き続き呼びかけ、各施設の代表（NPO法人含む）が集まる毎月の館内連絡会にて前月のエネルギー使用量及びごみの排出量を確認し、共通の認識をもって目標に取り組む。	館全体の電気・ガス使用量及び各施設からのごみの排出量	館全体のエネルギー使用量及びごみの排出量を抑えるため、来館者及び関係団体と協働しながら館全体として取り組む必要があるため。	来館者数の増加や気候等の影響で電気・ガスの使用量が増加傾向にある中で、引き続きエネルギー使用量及びごみの排出量を抑えるよう来館者及び関係団体と協働しながら館全体で取り組む必要があるため。	継続	平和と人権課

プログラムNo.	目的	目標	実施事項	管理項目	本プログラムを選択した理由	継続・改定等の理由	継続・改定・新規	主管課
11	市民への啓発	市及び市民が行うイベント等に徒歩による市民参加を促す。	講座・イベント等の告知時に、関連するSDGs項目のマークを掲載する。	チラシ、ホームページ等周知する媒体にカロリー表示ができたか。	市民の事業参加時にSDGsの啓発ができ、持続可能な開発についての市民意識の向上につながるため。	昨年度まではイベント開催場所までのカロリー表示を行い、徒歩移動の推奨を行っていた。しかし、社会状況の変化により、会場に人を集める事業が少なくなったため、変更する。	継続	地域協働課
12	省資源	ペーパーレス会議等の推進による、用紙印刷量の3%減(R1年度比)	”ペーパーレス化を更に推し進める。 ①各会議や研修での無線PC利用斡旋 ②電子申請の推進”	情報政策課が支払を行っている印刷量を利用。令和2年度と比較する。	ペーパーレス化を推進することにより、業務の効率化や、環境への負担軽減、さらにはセキュリティ面において、重要情報の紛失等を防げるため	昨年度ペーパーレス会議の推進や電子申請の利用を推進する努力はしたものの、利用についての周知が完全に行き届いていない。本目標を継続することで全庁的なペーパーレス化を推進することで働き方改革を	新規	情報政策課
13	省資源	パソコン利用等によるペーパーレス会議の推進と併せて、課内における紙の使用量を削減すること	課内及び総務課主催の打合せや会議において、パソコン利用などによるペーパーレスで行うこと	平成30年度からの紙使用量を5%減らすことを目標とし、月末に使用数を確認、平成30年度時との比率をチェックする	総務課内でペーパーレス会議を推進しており、それをさらに推進していくため。	総務課内でペーパーレス会議が浸透しつつあるため、それをさらに浸透させるため	継続	総務課
14	省資源	パソコン利用等によるペーパーレス会議の推進と併せて、課内における紙の使用量を削減すること	課内及び総務課主催の打合せや会議において、パソコン利用などによるペーパーレスで行うこと	平成30年度からの紙使用量を5%減らすことを目標とし、月末に使用数を確認、平成30年度時との比率をチェックする	総務課内でペーパーレス会議を推進しており、それをさらに推進していくため。	総務課内でペーパーレス会議が浸透しつつあるため、それをさらに浸透させるため	継続	政策法務課
15	省エネ	時間外勤務における、不要な照明の消灯を徹底する	平日の時間外、土日祝日に業務を行う際に、従事者がいないエリアの不要な照明は消灯を徹底する。照明が不要になるエリアで最後に退勤する者が、声を掛け合った上で該当する照明を消灯する。	従事者がいないエリアの不要な照明に気が付いた場合には、消灯したうえで後日実行担当者へ報告し集計する。	平日や土日祝日に、少数による時間外勤務が行われる場合があるが、不要なエリアの照明が付いたままであることが時々見受けられるため。	これまで紙資源に関するプログラムが続いていたが、十分実行できていたため、他に環境影響度が高い電気に関するプログラムへ変更する。	新規	職員課
16	省資源	土地公売PR販促品に環境配慮型商品を使用し、配布することで、市民の環境に対する意識を高める。	①商品購入時に環境配慮型の商品があるかを確認する。 ②前年度の実績をもとに余剰を減らす。 ③市民に対する発信	各課集計を行い、利用状況の把握をする	土地公売PR販促品に環境配慮型商品を配布することにより、環境負荷低減を図る	公売用の販促品を大量に購入することから、現状では最も効果的な取り組みだと考えられるため	継続	財産管理課
17	省資源	職員が燃費向上を心がけた運転をする	①庁内掲示板にて燃費向上を促す（燃費のいい運転の仕方等） ②庁用車購入時に燃費を考慮する ③燃料利用量、走行距離の集計をする	各課集計を行い、利用状況の把握をする	庁用車の燃費を把握し、燃費向上促進を図ることで全庁的な環境配慮活動となるため	環境に配慮した庁用車はすでに導入済みである。今後は燃費向上を促進して更に環境に配慮していきたい	継続	財産管理課
18	(その他) 環境負荷低減の啓発	施設整備での省エネ・リサイクルを推進する。	施設整備で以下の検討を行う。 ①LED照明、太陽光発電、節水型器具、その他省エネ機器の導入検討 ②再生材、残土利用の活用検討 ③緑化、多摩産材の活用検討	設計、工事案件ごとに検討状況を確認する。	公共施設での環境配慮を進めることで、市全体の環境意識の啓発につながる。	今後も継続することで、環境配慮を促し、負荷低減を図っていくため。	継続	建築営繕課
19	省エネ	カーボンマネジメント事業の推進	①本庁舎空調、照明改修工事の監視とフロア別電力測定によるCO2削減行動推進。 ②カーボンマネジメント事業の普及活動 ③本庁舎・市民会館における電力監視装置の導入	・本庁舎フロア別電力測定 ・4市連携協定による相互監査や環境研修による水平展開 ・環境フェアでの市民、市民団体、事業者等へのPR ・CO2分科会でのPR ・市広報やホームページでの事業実績PR	省エネ機器導入の取り組みによりCO2排出量削減、事業PRにより市内外への環境意識の啓発につながるため。		継続	建築営繕課
20	省エネ	職場内の省エネルギー化を図る。	不要照明の消灯及び両面印刷の実施、紙資料の削減、エコ運転の実施を行う。	省エネ省資源チェックリスト、エネルギー使用量集計表にて毎月の電気使用量燃料使用量の管理を行う。	職場環境の向上及び電気代、燃料代の削減等の実施成果が見込まれるため。	引き続き職員の意識を高めていくため	継続	防災安全課
21	省資源	コンビニ交付機での利用を促進し、利用率12%以上を維持する。申請書等の紙類の縮減を目指す。	コンビニ交付について、広報等による利用促進し、リーフレットやイベント等で周知啓発を行う。	諸証明の発行について、コンビニ交付機での発行率を四半期ごとに計測する。	コンビニ交付機を利用することで、申請書の紙の消費削減に繋がる。また、それによって、紙類のごみの量が減り、二酸化炭素の削減にも繋がる。	令和2年4月からの手数料見直しにより、コンビニ交付は窓口交付より割安になり、これまで以上にPRに取り組む必要があるため。	継続	市民窓口課

プログラムNo.	目的	目標	実施事項	管理項目	本プログラムを選択した理由	継続・改定等の理由	継続・改定・新規	主管課
22	市民への啓発	ごみの減量(市民への環境保全の取組PRと周知)	・転入者へのひのエコの周知（ごみカレンダー配布の際、ひのエコの取組、プラごみについて口頭、所内掲示のポスターで周知を行う ・ごみの持ち帰りの推進（ロビーでごみ箱を設置しないことで持ち帰りを促す）	・窓口等でどれだけ市民に周知できたかを確認する 「達成度評価」を毎月作成 ・おむつ袋及びボランティア袋の配布数のチェック	市民や新しく市民になる方に日野市の環境に対する取組をPRすることでひのエコを更に推進させ、市内の環境保全の意識を高める	市民へのエコPRは継続周知が必要であり、継続することが環境保全に繋がると考える	継続	七生支所
23	省資源	コピー用紙の年間使用量の削減に努める。 また、令和2年度よりも年間使用量を削減する。	集約印刷及び両面印刷、裏紙印刷（課内資料のみ）を利用する。 月ごとのコピー用紙使用量の見える化を行う。 また、可能な限り印刷せずに電子データを活用するよう努める。	コピー用紙使用量	課税資料以外にもコピー用紙の使用量が多く、環境配慮の基本である紙の削減、不必要な紙の使用をなくすため。	令和2年度は、確定申告の期間延長と3市による新システム稼働による事務のためコピー用紙の使用量が増大した。この目標を継続し、紙の削減を目指す。	継続	市民税課
24	紙の使用量を削減する	紙類を中心に資源の使用量・排出量を削減する。	業務で使用する資料等を出力する際、印刷前のプレビューを確認し、無駄な印刷をしないようにする。また、両面印刷やNアップ等を活用し、紙類の使用量削減を心がける。	排出量確認表により、紙類の排出量を計測し、排出量が前年度を上回らないよう心掛ける。	評価事務において、参照する資料等、紙類を多く使用するため、削減を目指す。	意識の定着を図るため今年度も継続して実施する。	継続	資産税課
25	廃棄物削減	リサイクル意識の向上、分別の徹底	廃棄物排出量と分別状況を月毎に確認し、職員に周知する。分別ができていない場合は原因を調べ、改善策を講ずる。	排出量確認表	職員に対し分別状況や排出量を周知することで、自身の行動を見直し、リサイクル意識の向上につながると考えられるため。	令和2年度は、可燃ごみ排出量が前年度と比べて増加傾向にあったため、変更する必要性があると考えた。	新規	納税課
26	(その他) 職場環境の改善	窓口サービス・事務効率の向上	印刷物・配布物の適正管理。必要分数の紙使用により、余剰分を出さない。執務室内の整理・整頓をし不要となったものはリサイクルし、ワークスペースを確保する。	毎月末に実施確認		継続して、印刷物の適正管理等を行うことで、ペーパーレス化、窓口サービスの向上、業務の効率化を推進するため	継続	保険年金課
27	プラスチック削減	日野市飲食店テイクアウト等支援事業の実施	・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、テイクアウト事業を強化しようとしている中小企業者向けに、プラスチックの使用を抑えた環境への負荷の少ない容器を市が一括購入し、テイクアウトに使用する容器として、希望する飲食業者の一助となるよう無料で配布する ・本事業へ参加した飲食店を訪れた市民の方への啓発にもなるように、プラスチック削減啓発物品も配布する	本事業への参加企業数	市全体の方向性である、「プラスチック削減」「SDGs」に取り組むことができる内容であり、事業参加飲食店を訪れた市民への啓発も行えるため。	前年度までのプログラムより、「プラスチック削減」「SDGs」により直接的に取り組む、市民への啓発もできる内容であるため、今回のプログラムに変更した。	新規	環境保全課
28	省エネ	公園環境の整備	遊具、園内灯の修繕・撤去・更新	修繕計画に基づく適切な修繕・更新	・よりよい公園内の環境整備のため ・園内灯のLED化による環境負荷の低減がみこめるため	・引き続き遊具・園内灯については修繕等の必要箇所があると考えられるため	継続	緑と清流課
29	省資源	庁用車の燃費向上	①タイヤの空気圧定期点検 ②エコ運転の実施 ③燃費の計測(四半期毎) ④前年同期の燃費を下回らないこと	イヤの空気圧点検及び毎回のエコ運転の実施 ②実施翌月に①の達成率を確認 ③四半期ごとに評価 ④平成29年度の目標設定に向け、四半期毎に燃費を計測	一人一人がエコ運転を心がけ、車の空気圧を管理し、燃費向上に向け努力する事を目標にした。	前年度に、前年度期の燃費を下回らないという目標を達成をできない時期があり、今期も継続的にエコ運転を心掛け、目標達成を実現するため	継続	下水道課
30	市民への啓発	第3次ごみゼロプラン数値目標を達成する。	市民に向けてより踏み込んだごみ減量の取り組みと協力を啓発する。	第3次ごみゼロプランに掲げた「令和8年度に1人1日あたりごみ量550g」に向けた啓発	第3次ごみゼロプランの目標達成のために、市民への啓発が最重要項目の一つであるため。	第3次ごみゼロプランの目標達成のために、市民への啓発が最重要項目の一つであるため。	継続	ごみゼロ推進課
31	廃棄物削減	3S（整理・清掃・整頓）の実行により職場環境・事務効率の改善及び廃棄物の削減を図る	・点検日を設定し整理、整頓の周知徹底を図る ・書庫、キャビネットの識別管理 ・ファイルに収容内容を記入し物を探す時間を減らす ・要るもの要らないものを分類し不要な書類は破棄する	点検日を設定し、責任者が事務所内の点検を実施する	洗出表により、各事業における紙使用量が多く、本プログラムを実施することで環境への好影響と事務効率の改善が期待できるため	昨年度も同プログラムを実行し職場環境・事務効率の改善に効果が出ているため	継続	施設課
32	廃棄物削減	職員及び書類提出者に対する環境への意識付け	・地区計画の届出、ユニバーサルデザイン推進条例、まちづくり条例の手続き上の提出書類の必要部数について確認を十分に行う。 ・不要な書類は提出者へ返却し、今後は必要部数を事前に確認してもらうよう周知する。 ・裏紙を積極的に使用する。	・排出量確認票による紙面ゴミの計測	・頻度が高い事業の中でも、相対的に環境へ負荷を与えているものであったため。 ・課の業務の性質上、会議による資料等紙の消費量が多いため。 ・ペーパーレス推進のためコピー用紙の配布方法が変更されるなど、廃棄物の見直しが今年度必要だと判断したため。	取り組みが意識されはじめているが、さらなる徹底を行い継続するとともに、今後は対象事務を拡大し、課としてさらに広く取り組むことにした。	継続	都市計画課

プログラムNo.	目的	目標	実施事項	管理項目	本プログラムを選択した理由	継続・改定等の理由	継続・改定・新規	主管課
33	(その他) グリーン購入の推進	関係機関に対してグリーン購入を呼びかけ、グリーン購入率50%以上を維持する。	関係機関にグリーン購入の呼びかけ(年4回)(2機関=公財東京都都市づくり公社、川辺堀之内土地区画整理組合)	グリーン購入の呼びかけとグリーン購入率の測定	関係機関へもグリーン購入を呼びかけることで、事業にかかる環境負荷を減らすため	グリーン購入率の目標をかかげ、グリーン購入の更なる推進を図るため	継続	区画整理課
34	省資源	・紙の使用量及び排出量削減	・コピー用紙の使用量を計測し、時期ごとの使用量変動を把握する。 ・コピー用紙の使用量を過去6年度の平均以下とする。 ・資料の電子化・電子申請の準備を進める。	・課会で毎月の使用量を周知する。 ・使用量の見える化。グラフ等で課内に掲示する。 ・紙の使用量を過去6年度の平均以下となるよう使用状況を課会にて周知する。	・業務の性質上、法改正等により紙を大量に使用する必要性が生じる為。また、環境影響洗出表の見直しにより、紙の消費が環境に与えるマイナス影響が大きいと考えられる為。	・昨年度に実施し、コピー用紙の使用量の一部削減につながった為。 ・裏紙利用の抑制があるため裏紙利用の枚数管理をやり、今後の電子化に向けた準備を進めるため。	継続	建築指導課
35	省エネ	自転車利用の促進	・自転車を週2回以上利用することを目標とし、月8回以上の自転車利用を継続して実施する。 ・自転車利用促進により自動車の利用を減らす。	自転車利用回数	・省エネ意識を向上させる。 ・自動車利用を減らし、環境への負荷を軽減させるため。		継続	道路課
36	(その他) 整理整頓	3S(整理・整頓・清掃)遂行による事務効率の改善を図り、働き方改革へと繋げていく。	・資料を精査し、不要なものは廃棄する。 ・年に1回以上合理的な備品配置を検討する。 ・定期的な清掃を実施する。	必要に応じて、少なくとも月1回、課全体で整理・整頓の時間を設ける。	本取り組みは、職場環境・事務効率を改善することが効果的と考えられるため。	昨年は一定の効果が図られたと考えられるので継続して実施する。	継続	産業振興課
37	廃棄物削減	・イベント等における廃棄物の削減	イベント等で使用または配布するものをできるだけ、簡素化し、参加者にはゴミ等の持ち帰りを行う。	廃棄物排出量	新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのイベントにおいて実施可否や実施手段の見通しが立たない中、廃棄物を最小限に抑えつつ運営を行うため。	令和2年度は多数のイベントが中止となり、目的として設定していた「市民の啓発」を十分に行えなかった。令和3年度においてもイベントが中止となり、市民へ啓発する機会を確保できないことが考えられるため。	改定	文化スポーツ課
38	(その他) 緑の保全	農地の保全を図るため援農ボランティアを育成する	・「農の学校」を運営管理し、援農ボランティアを育成する ・「農の学校」修了後の援農ボランティアの活動実績を増やす	・「農の学校」の実習日、参加人数 ・「農の学校」修了後の援農ボランティア活動人数	日野の農地保全に効果的な取り組みであることから	「都市農業振興基本法」に基づき、農地保全を維持・継続していくため	継続	都市農業振興課
39	省資源	プラごみ削減のため、新聞紙エコバッグの利用を促進する。	・NPO法人市民サポートセンター日野が作成した新聞紙エコバッグを、セツ塚ファーマーズセンターで野菜を購入した方に配布する。	・エコバッグ配布個数	レジ袋削減、SDGsの推進を図ることができるため	令和2年度に新たに開始した取り組みであり、SDGsの推進を図ることができるため。	新規	都市農業振興課
40	省資源	毎月使用する紙の使用量を削減する。	毎月、紙の使用量削減目標を設定し、総務課から持ってくるコピー用紙の数量を毎月記録する。	毎月の紙の使用量(総務課から持ち出す紙の使用量)削減目標を達成できたかどうか。	裏紙利用の呼びかけ等を行い、職員の意識は高まっているが、使用量を超過する月もあるため、引き続き削減を徹底していくため。	業務の増加等により、紙の使用量も相対的に増える中で、省資源を継続的に課で一体となって実施する必要がある為。	継続	福祉政策課
41	廃棄物削減	エコに対する意識向上、職員各自がゴミの分別の徹底が出来るようになる。	・実行担当責任者が分別状況等を確認し、分別ができていない場合は原因を究明し改善策を講ずる。その際朝礼等でも周知をする。 ・各自訪問時等に市民等へ周知を行う。	・ゴミの排出時に、分別が行えているか目視による確認 ・排出量確認表への記入管理。	・課内においてゴミの分別の徹底は、仕事をする上で基本的なことであるため。また市民へ周知することで市全体のエコに対する意識を高めることができるため。	・課内においてゴミの分別の徹底は継続していかなければならないものであるため。 ・被保護世帯の増加により、市民に対する周知まで完全に行えていないため。	継続	生活福祉課
42	省資源	多数の市民が集まる委員会や会議をオンライン会議とすることで、ペーパーレス化の推進および移動に伴う燃料を削減する。	・クールビズ・ウォームビズを徹底し、エアコンの使用をコントロールする。	オンライン会議を実施できた回数によって判断する。	紙の排出量削減や移動に伴う燃料の削減についての職員の意識を高めるため。	オンライン会議やペーパーレス会議の実施が全庁的に浸透してきたため。	新規	障害福祉課
43	廃棄物削減	廃棄物の排出削減	廃棄物について月毎の排出量を確認し、前月比との増減について職員へ周知する。 前月より排出量が増加した月が3か月以上続いた場合にはエコマネジャーが適切な是正措置を行う。	廃棄物排出量	職員に月毎の具体的な排出量を周知し、廃棄物排出削減の取組みを求めることで、環境意識の向上が期待できるため。	例年に引き続き取り組みを強化し進めていく。	継続	高齢福祉課
44	省エネ	自転車の利用促進	毎月、自転車の利用回数を確認する。	自転車の使用回数	自動車の使用頻度が高く、自転車利用を促進することで省エネにつながるため。	自動車の使用頻度が高く、積極的に自転車を利用していく必要があるため。	新規	健康課

プログラムNo.	目的	目標	実施事項	管理項目	本プログラムを選択した理由	継続・改定等の理由	継続・改定・新規	主管課
45	省資源	紙の使用量を削減する。	課の一人ひとりが可能な限り紙の削減を意識して業務を進める。	総務課から支給される紙束の数を管理する。	当課の事業で一番消費する資源が紙であるため。	平成28年度より継続中。当課の事業で一番消費する資源が紙であるため。	継続	セーフティネットコールセンター
46	省エネ	自転車利用・徒歩の促進による自動車利用回数の削減	近隣に業務で出かけるときは、徒歩または自転車を利用する。 毎月1回徒歩・自転車利用状況を課内周知する。	庁用車の代わりに徒歩または自転車で移動した回数。	当課は単独の施設にある環境のため、他の部分での省エネが考えにくいため選択。	昨年度は一定の効果があり、本目標を継続して設定しないと近隣へ車利用する可能性があるため。	継続	在宅療養支援課
47	省資源	課内の紙の使用量を把握し、削減する。	総務課から支給される紙束の数を測定する。 ①所定の様式に用途別に支給された束の数を記載。 ②印刷機とコピー機の用途を区別するため、紙の保管場所を分ける。 ③毎月計測し、大幅な上昇がある場合、朝礼等で報告及び啓発。	支給される紙束の総数で判断する。	令和3年度よりペーパーレス推進に伴う総務課配布コピー用紙等の割当配当制の導入がされ、業務のデジタル化が推進されるにあたって、使用量と用途を把握し、個々の紙の削減意識を高めるため。	平成30年度より開始したプログラムであるため。また、子育て課全体の紙使用量のうち、課内設置の2Fコピー機の占める割合について、継続的な確認を行うため。	継続	子育て課
48	廃棄物削減	可燃及びプラスチックごみの削減	個人ごみの持ち帰りの徹底・イベント等でリサイクルの呼びかけリサイクル可能な物を捨てない・物品の適切な購入適切な分別	排出量調査票	・プラスチックの分別を徹底するため ・可燃は引き続き排出量を昨年度と比較し削減に対する意識を高めるため	児童館では製作に紙や段ボール、牛乳パックなど可燃物を多く使用するため、極力リサイクル出来るよう配慮し可燃の排出量を抑える事が必要なため継続するものです。	継続	児童館共通
49	その他 業務改革・改善の推進	入園のしおりの持ち帰りを必要最低限にするよう、窓口で保護者に協力を呼びかける。	入園のしおりを配布する際、兄弟用や予備用としての持ち帰りはお断りし、「1世帯1部」配布の徹底を心がける。 また、市民相談窓口等のしおり設置場所にも周知徹底を図る。	保育園入園のしおり配布部数、実施状況	市民の方にも日野市の環境に対する取り組みを認識してもらうため。	引き続き市民の方にも日野市の環境に対する取り組みを認識してもらうため。	継続	保育課
50	省エネ	保育園職員及び在園児全体で季節に応じたエコ活動を行う。	四半期ごとに実施事項を策定し、日常の保育活動の中で身近なエコを実施していく。	各園のエコ活動の実施回数とその内容	職員のみならず、市民（園児及び保護者）と共に楽しみながら実践できるエコ活動として有用であるため。	児童福祉施設として無理なく、総合的にエコに取り組んでいくために継続とする。	継続	保育園共通（保育課）
51	省エネ	自転車利用を促進し、庁用車の利用を抑制する。	自転車利用表に外出の際チェックする。 回数を計算し、成果が目でわかるようにする。	表で回数を管理する。	訪問等で庁用車を使用して外出することが多い職場であり、環境への影響が大きいため。	車の利用が多い部署のため、自転車利用を推進して、省エネにつなげる。	新規	子ども家庭支援センター
52	省資源	伝票の手戻りを減らすことにより、各課の紙の消費量削減及び事務の効率化を図る。	間違いの多いケースや注意点を財務会計掲示板に掲載し、注意喚起する。 再提出の際、返却した伝票の付箋紙に主管課長の確認印が必要とすることで、決裁時の注意点にしてもらう。	手戻り件数を集計	手戻りを減らすことで、紙の消費量削減・事務の効率化に繋がると考えたため。	手戻り数はやや減少傾向にあるが、継続することで、更なる改善が見込まれると判断したため。	継続	会計課
53	省エネ	電気の使用量の削減に努める	①不要照明の消灯の徹底 ②退庁時等の各自のパソコンの切断（庁内、C4th） ③プリンター2か所の電源切断（残業者へ声かけ、表示）	省エネ・省資源チェックリストによる計測をおこなう。	環境影響洗出表の結果から「電気の使用」の影響が大きいため。	継続の理由：前回2年間同一プログラムに取り組み課全体の資源節約につながるよう取り組むことを目標に選択した。	継続	庶務課
54	省資源	コピー用紙の使用料を削減する	庁内の会議等の資料について、枚数・部数の適正化をはかり、裏紙利用や両面印刷を心がける。また、教育委員会と学校間の通知等について、可能な限り公務支援システムを利用し紙の削減をする。	省エネ・省資源チェックリストによる「紙の使用料削減」・「課のテーマ」の実行確認	まだまだ、紙の使用量が多かったため、さらに一人一人が意識して取り組み課全体の資源節約につながるよう取り組むことを目標に選択した。	継続して実行することで、常に意識し一人一人の行動も定着させるため。	継続	学校課
55	省資源	節水・節電の意識をもって、適切な使用量を継続する。	・保育中の手洗い、水遊び等の水の使い方を定期的に指導する。 ・園庭開放時も保護者に節水と呼び掛ける。 ・保育室の使用状況により、電気やエアコンの適切な使用促す。	幼児や保護者に「水を大切にする」指導を定期的に行う。 電気の適切な使用を状況を管理し、節電の意識付を定期的に行う。	コロナ禍で、手を洗う重要性や密を避けるための換気などが大切な事項となっている。そのため、使用頻度が多くなる分、節水・節電の意識を高めておかなければ、余分な資源を使うことにつながる	毎年半数は人が入れ替わるため、意識付けは定期的に行うことが適切及び有効であると考ええる。	改定	幼稚園共通
56	省エネ	教育センター内の電気、ガス及び水道の使用量について削減を図る。	室内温度の適正管理、空室・不在時のこまめな消灯、事務機器等省エネモードの設定。	エネルギー使用量の把握、前年同月との比較。	光熱水費削減のため。	光熱水費削減の取り組みが、環境負荷低減につながるため継続する。	継続	教育センター

プログラムNo.	目的	目標	実施事項	管理項目	本プログラムを選択した理由	継続・改定等の理由	継続・改定・新規	主管課
57	省資源	紙の使用量の削減	・印刷の方法等を工夫し、紙の使用量を削減する。 ・再生紙を持ちだす際は、管理台帳に数量を記載する。	毎月管理台帳を確認し、使用状況をチェックする。	Nアップや両面印刷の利用を徹底すること等により、紙の使用量を削減するため。	昨年度に引き続き、管理台帳での管理継続することで紙の使用量について確認することができるため。	継続	発達・教育支援課
58	省資源	ペーパーレス化	昨年度に引き続き、ゴミ分別の徹底を図り、また、紙印刷の抑制を意識して業務を行っていく。	プログラム推進管理表による評価	PC周辺機器の電力量減少にも繋がり、紙資源の使用抑制により環境負荷の低減を図れるため	ペーパーレス化によりCo2の削減になり、SDGSへの取組みにも繋がっている為、昨年度に引き続き継続としました。	継続	生涯学習課
59	市民への啓発	環境に配慮したイベントを開催する。そして市民の方々にも、共に環境に配慮した行動の必要性をPRしていく。	イベント開催にあたり、参加団体や来場者を含めた環境配慮を行う。	環境に配慮したイベントや講座を開催する。そして市民の方々にも、共に環境に配慮した行動の必要性をPRしていく。 講座の受付方法を既存の電話受付に加え、電子申請を取り入れることで職員の業務負担を減らす。イベントでは『マイ食器・マイ箸持参』を呼びかける。	公民館のイベントである、「公民館まつり」、「分室まつり」、「ひのアートフェスティバル」において、主にリユース食器の使用とその目的の周知を行う。環境に関する講座を実施することで、学びを得るだけでなく、エコへの意識を持ち帰って地域に広めることを狙う。	ごみの減量効果にリユース食器等の使用は効果が高いため。持参率の数値化は難しいが、リユース食器の貸与所などでの周知を呼び掛ける。イベントのみならず、環境に関する講座を実施することで、継続的なエコへの意識を持っていたいただく。講座の受付方法を電子申請に切り替えることで、電話受付による事務圧迫を削減する。	継続	中央公民館
60	市民への啓発	市民に対して日野市の環境方針等の周知を図る。	公民館が発行する「公民館だより」、ホームページ、ツイッター、公民館内での掲示等で啓発を行う。	市の環境方針等の周知方法として、公民館だよりへの掲載、HP、ツイッターへの投稿。館内各箇所に「ひのエコ」の取り組みを掲示周知していく。	公民館だより、ホームページ、ツイッター、公民館内での掲示等を利用して、広く啓発活動を行うため。	公民館だよりの他、各種チラシや、ホームページ、ツイッターでの発信を強化し、公民館の環境配慮への取り組みを紹介する。	継続	中央公民館
61	廃棄物削減	除籍資料のリサイクル	除籍した資料を市民および市内施設に提供することによって、リサイクルに取り組む。	・リサイクル率（リサイクル冊数／廃棄冊数）（年間目標80%） ※廃棄冊数に汚破損廃棄は含まない	除籍資料をリサイクルすることによって、資料の再活用化にもなるため	前年度に管理項目をリサイクル率に変更。今年度も引き続き継続し、内容の確認をおこなうため。	継続	図書館
62	市民への啓発	環境図書資料の展示	環境に関する図書資料を図書館全体で広く市民に提供する。	・展示冊数	広く市民に環境図書資料に関心をもってもらうため。	環境図書資料の貸出増加につながっており、更に市民へ環境問題への提起を行うため。	継続	図書館
63	省エネ	事務スペースの電気使用量の低減を図り、特に、エアコン使用量を管理する。	・こまめな節電活動とその活動の周知。 ・クールビズ・ウォームビズを徹底し、エアコンの使用をコントロールする。	事務室のエアコンのオンオフ時間・設定温度の管理表を作り、使用時間を削減。季節に応じて使用停止時間を設定する。 室内温度や入館者数を見ながら、開館中のオンオフも行う。 ※前年度は記録的な猛暑に加えて土方歳三没後150年イベントにより来館者数が急増し例年より電力消費量が増しており、削減が容易であるため、4～12月の電力使用量は前々年度を基準とする。イベント終了後の1～3月は前年度を基準とする。	電気代の経費削減につながるとともに、職員及び来館者の節電意識を高めることができるため	令和元年度は酷暑と来館者の大幅増により目標は達成できなかったが、職員意識の向上と一般来館者への啓発のため継続する。	継続	ふるさと文化財課
64	市民への啓発	展示や、学校対応、ホームページなどで、環境への配慮に関する周知・啓発行なう。	市民および子どもに対する発信。	①展示の見学時に、昔の「エコな生活」を語り、市民への啓発を行なう。年間30件の団体見学を受け入れる。館内では年4回の展示を実施する。 ②学校の展示見学や出張授業の際に周知する。	展示等の事業を通して、環境に配慮した生活を市民および子どもに対して啓発するため。	資料館が行う活動として、特徴的であり、普及活動は今後の社会への影響を考えて大切なため。。	継続	郷土資料館
65	(その他) 整理整頓	職場内の整理整頓の推進	定期的な整理整頓を行うことで、分別によるリサイクル率の向上や適正な在庫管理をはかり、事務効率化を実現する。また、在庫状況確認等を徹底し無駄な物品購入を抑える。	机上、キャビネット、個別フォルダ、5F書庫、BF書庫・倉庫、百草台コミュニティセンター・ふれあいホール倉庫	保管書類や事務用品が多く、整理整頓を徹底しておくことで、解散や辞職による急な選挙の執行においても、能率的かつ効率的な業務が執行できると判断したため。	例年と同様のプログラムであるが、都知事選挙に加えて、衆議院議員選挙の執行の恐れがあることから、急な選挙に対する対応やその事務における環境への配慮を推進するため。	継続	選挙管理委員会事務局